



済生会千里病院

広報誌

花 はな 水 みず 木 き

ご自由にお持ち帰り
ください

TAKE FREE



マスコットキャラクター
ポンちゃん®

- 海外での医療支援ってどうやってやるの？
- 国際緊急援助隊医療チームとしてトルコ派遣での活動



院長室より

春になりました。コロナ禍もやや収束傾向、マスク着用も個人の判断に任せるとかで、何とはなしに心がウキウキする今日この頃です（病院では引き続きマスクの着用をお願いします）。今号の花水木では、去る2月6日にトルコ南東部で発生したトルコ・シリア地震に対し国際援助活動に派遣された当院職員の体験記を掲載し、あわせて大規模災害における当院の役割についてご紹介したいと思います。また最終頁の院長コラムでは、創立20周年記念クラウドファンディングについてご紹介しています。是非ご一読ください。

Vol.52

2023.04

1月・4月・7月・10月 | 季刊発行 |

海外での医療支援って どうやってやるの？

千里救命救急センター 伊藤 裕介

皆さんは本年2月6日に発生したトルコ南東部の地震の状況を連日テレビで放映され、「大変な状況になっているな」って、「家が壊れて困っているだろうな」ってご覧になっていたと思います。その中で、日本の医療団が支援に入ったとか、どここの医療チームが瓦礫の下から救助することに成功したなんていう報道を耳にされたと思います。地震が起って大変な状況なのに、他の国からどうやって支援に行くんだろう？どんなルートで支援が決まるんだろうって思いませんか？この災害医療支援には政府主導のものと、非政府主導のものとあります。まず、政府主導のものについてお話しします。日本には国際協力機構JICA（Japan International Cooperation Agency）という機関があり、その中に、国際緊急援助隊という、自然災害に対し、緊急援助を行う部隊があります。普段は消防署や医療機関に勤務している方々が、いざというときに各所から集まって、困っている国へ救助に行くというものです。実は、済生会千里病院の職員の中には、この国際緊急援助隊の隊員がたくさんいて、今回のトルコ地震の災害支援に派遣されています。派遣の流れは、まず、トルコ共和国政府から日本政府に要請が入ります。日本政府はこの要請を元に、国際緊急援助隊・専門家チーム派遣を決定し、JICAが同チームの派遣に着手するということになります。国と国との関係・外交の一つであり、重要な活動なんですね。一方で、非政府主導のものは、少し流れが異なります。当院の職員の中には、人道支援を行う非政府組織（NGO：Non-governmental Organization）に所属している職員もいます。NGOが今回の災害に支援を行うことを決定すると自己資金の中から派遣者を募集し、被災国へは自力で移動します。そして被災地に最も近い空港に入り、国連が設置した、支援団体の受付で登録を行い、被災地に入ります。登録の際には、現地の医療支援団体の集合体であるEMTCC（Emergency Medical Team Coordination Cell）の連絡先や、現地の保健省の連絡先などがあり、また、被災地の道路情報なども教えてくれます。トルコの場合は、国内の災害救急医療を扱うAFADという組織の受付もあり、そこでも被災地に入る際に、登録を行い、情報を提供してもらいます。今回は、トルコ国内で使用できるfree SIMをいただくことができました。その後は、被災地を視察し、EMTCCの中で、どの



ハタイの様子

場所にどの団体が支援に行くのか、話し合いがもたれ、現地の保健省とともに、活動場所が決まっていきます。この話し合いの中には、もちろん先ほどの政府主導の医療団体も入っており、それぞれがバランスを取りながら被災地に満遍なく支援が行き渡るように調整されているのです。

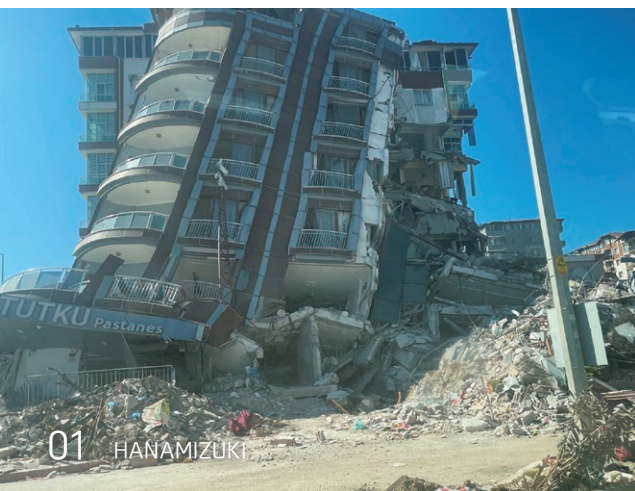
災害人道医療支援会

(HuMA: Humanitarian Medical Assistance)

先遣隊としての活動

私は、HuMAというNGOの団体の先遣隊（人道支援活動をする場所を探す役割）として派遣されました。今回のトルコ南東部の地震では、2月6日4時17分にマグニチュード7.7の地震がガズリアンテプ・カフラマンマラシュというところで発生し、同日カフラマンマラシュで13時24分にマグニチュード7.5の2回目の大きな地震が発生しました。そして、自分が派遣中の2月20日20時4分にマグニチュード6.3の3回目の大きな地震がハタイで発生しました。WHOの報告ではトルコで死者31,643人、シリアで5,841人、負傷者は、トルコで80,278人、シリアで10,900人と報告されています（2023年2月13日時点）。

今回の地震の特徴として、被災した範囲が広大で、日本に換算すると、大阪から福井市周辺までがすっぽり入るぐらいの範囲で被害が発生しているとのことでした。トルコの建物の構造の問題がテレビで話題になっておりますが、多くの建物がパンケーキのように潰れており、被害の深刻さを物語っていました。私は、2月16日より被災地の近くの空港であるアダナ空港に入り、医療チームの登録を行ったのち、被災地の視察を行いました。日本の国際緊急援助隊が活動するガズリアンテプなども視察しました。今回の視察で、通信機能の問題で発災後3日間支援が入らなかったハタイ県のアンタキヤというところの視察を行いました。街の8割以上の建物が倒壊し、街の人は70%以上が避難したと言っていました。その中のタニシュマという村に行くと、被災後、村にひとつしかない診療所の医師・看護師は、自分たちの街に避難し、無医村になっているとのことでした。村には8,000人の人が暮らしていて、羊の放牧などがあるため、自分たちが村を離れることができない



ハタイの様子



いと言っていました。この村の周りには、他にも村があり、全部で10,000人の医療をカバーする必要があるとのことでした。村の薬局も壊れており、一番近い病院まで、車で1時間かかるので、村長は、ここの診療所の支援をしてほしいと言っていました。もともといた診療所の医師に連絡し、我々がこの地で医療を行うことの相談をすると、ぜひ協力して行いたいと言われ、この地での診療支援がスタートすることになりました。私は、活動場所の選定が任務でしたので、その後の活動は、もう一つのNGOであるPeace Winds Japanと共同して診療所の医療支援と、タニシュマ村への物資支援を行うことになり、支援を引き継いでいただきました。

支援活動を終えて

今回の活動で、二つの重要なことを経験しました。一つは、被災地で活動する際に、余震や建物の倒壊の危険が常に付き纏い、その判断の重要性を痛感しました。活動中に大きな余震を経験し、活動を検討していた病院が立ち入り禁止になりました。もし、活動を行っている時に余震が起こったらと思うと背筋が凍る思いでした。そして、もう一つは、地元の復興を支えることに重点を置いた支援の難しさです。トルコの保健省の方が話していたことですが、自国の力で復興に立ち上がろうとしている時に、我々が支援することでその妨げるようなことがあってはならないということです。人道支援の基本ではありますが、被災国の復興を支えながら支援を行うことの難しさを痛感しました。医療の中に、“Do no harm”という言葉があります。これは、医療を行う中で、決して患者さんに危害を加えてはならないというものです。災害医療では、それに加え、“Do know harm”という言葉もよく使います。自分たちの支援が地元にとどのような影響を与えるかをよく知るべきであるというものです。今回の自分たちの支援が本当に地元の方々の復興に役に立ったのかどうか、今後もそのことを心に留めながら活動していきたいと思います。



▲タニシュマ村



▼村の診療所



活動を支えてくれた仲間に

今回、突然このような活動に行くことになり、決まっている勤務がある中で、許容してくれた済生会千里病院の仲間・上司、また暖かく送り出していただいた院長先生に感謝申し上げます。自分がこのような活動ができるのも、職場の皆様の協力があるからこそです。本当に感謝しかありません。今回の被災はかなり被害があり復興には5年から10年近い歳月が必要だと思います。これからもシームレスな支援を行えるようにトルコの復興を見守ってきたいと思います。

国際緊急援助隊医療チームとしてトルコ派遣での活動

ICU看護師 安村 寛子



国際緊急援助隊医療チーム一次隊としてトルコのGaziantep市で活動しました。

Gaziantep市は報道にあるような建物の倒壊などの被害は少ない地域でしたが、避難民や病院が機能しておらず病院受診ができない方が多く、診療需要が大きい地域でした。

国際緊急援助隊医療チームとして初となる、外来だけではなく手術、入院施設も備えた診療 TENT を開設しました。手術、入院施設があるため、医療機器など資機材が多く、開設準備には時間を要しました。しかしトラックからの荷卸しやTENT設置などに地域の方々がボランティアとして手伝ってくださり無事診療を開始することができました。外来では1日約100人の受診があり、その多くが呼吸器疾患でした。その他、外傷や妊婦さんの受診もありました。活動当初は気温がマイナスになるため寒さで医療機器が動かなくなるなどのトラブルがありましたが、工夫をしながら使用できる医療機器で活動を行いました。

トルコの方々は被災しているにも関わらず、通訳や現地での物資調達、食事の提供などたくさんの方々がボランティアとして支援してくださいました。また、受診に来られた方々からも多くの感謝の言葉をいただきました。国際緊急援助隊医療チームがトルコの地で無事活動

できたのも現地の方々のおかげです。



写真提供
JICA

クラウドファンディングご支援のお願い

院長 中谷 敏

当院には血管造影室（カテーテル室 カテーテルとは血管内に挿入する細いチューブのこと）が二つあります。この二室を循環器内科、脳血管外科、救命救急センターで共同使用しています。昨今、高齢化に伴い一刻を争ってカテーテル治療を行わなければならない急性心筋梗塞や脳卒中の患者さんが増加しています。さらにカテーテル治療（アブレーション）を必要とする不整脈患者さんも増えてきました。また外傷で腹部血管等を損傷した患者さんも最近はカテーテルで治療を行います。今まではこれらの患者さんに対し何とか二つのカテーテル室で治療を行ってききましたが、いよいよ限界に近くなってきました。ある日のことです。一室で救命救急センターに入院された腹部血管損傷の患者さんに緊急カテーテル的血管内治療を行っている最中に脳卒中の患者さんが入院、別の一室で脳血管カテーテル治療を始めたところに急性心筋梗塞の患者さんが搬入されるという事態が発生しました。このときは幸い腹部血管損傷の治療が間もなく終わったので急性心筋梗塞の患者さんにも遅滞なくカテーテル治療を行うことができましたが、もしもう少しタイミングがずれていたらと思うとぞっとします。地域の皆さんの命を預かる当院としてはこのようなことは絶対に避けなければなりません。この時以来、私たちは第三カテーテル室の必要性を強く認識しはじめました。折しも本年は当院が済生会千里病院となって20年目の節目の年です。この機会にカテーテル室増設を行います。しかし増設には多額の費用がかかります。そこでその費用の一部をクラウドファンディングを活用して皆さまからのご寄付でまかなうことができればと考えています。詳細は本号に挟み込まれているチラシ、または当院ホームページをご覧ください。皆さまのご支援をお待ちしています。



血管手術のための第三カテーテル室増室にご支援を



「体のことは千里に聞こう」
質問フォーム

「体のことは千里に聞こう」

FM千里「寺谷一紀の千里の道は世界へ通ず」では、毎月第1金曜日15:00～「体のことは千里に聞こう」のコーナーに、当院の医師が生放送で出演しています。番組の中で、リスナーの皆様からのご質問にお答えします。

FAX : 06-6832-8370

E-mail : nocorin@senri-fm.jp まで。

行 動 規 範 / 心のこもったチーム医療を行う。



地域医療支援病院 大阪府がん診療拠点病院

社会福祉法人

恩賜
財団

大阪府済生会千里病院

〒565-0862 大阪府吹田市津雲台1丁目1番6号

TEL:06-6871-0121 FAX:06-6871-0130

ホームページ <https://www.senri.saiseikai.or.jp/>



アクセス

- ▶電車……………阪急千里線「南千里駅」下車すぐ
北大阪急行線「桃山台駅」からバスで約10分
- ▶車……………院内駐車場をご利用ください(有料)

駐車場の利用料金については、当院ホームページでご確認いただくか、来院時に受付でおたずねください。

